【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成26年10月16日(2014.10.16)

【公表番号】特表2012-526753(P2012-526753A)
【公表日】平成24年11月1日(2012.11.1)
【年通号数】公開・登録公報2012-045
【出願番号】特願2012-510241(P2012-510241)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｎ　25/30　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　25/02　(2006.01)
Ａ０１Ｐ　 7/04　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　47/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｎ　25/30
Ａ０１Ｎ　25/02
Ａ０１Ｐ　 7/04
Ａ０１Ｎ　47/02

【誤訳訂正書】
【提出日】平成26年8月27日(2014.8.27)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ポリマー可溶化剤1重量％水溶液中の活性殺虫成分が25℃および1.01325 barで、純水中の同一条件下に比べて少なくとも40倍高い溶解性を有するという特性をポリマー可溶化剤が有し、かつ、活性成分と可溶化剤の重量比が≦1であり、かつ、可溶化剤が次の群A1、B1およびDから選択される、難溶性殺虫剤およびポリマー可溶化剤の、難溶性殺虫剤の土壌移動性を高めるための組み合わせ：

A1.超分枝鎖ポリカーボネートが少なくとも1種の線状もしくは櫛型のポリマーおよび／または酸性基、アミノ基または少なくとも2種のヒドロキシル基を含む少なくとも1種の官能性C_1-C_{24}単位に結合されており、ここで前記超分枝鎖ポリカーボネートが、少なくとも3個のOH基を有するアルコールとC_3-C_{24}アルキレンオキシドとをベースとする三官能性または高官能性ポリエーテルオールであるアルコールを含む、超分枝ポリカーボネート；

B1．次のB1群から得ることができるビニルラクタムコポリマー：

B1-1．(コポリマー全体に対して)60～99重量％の5～7員1-ビニル-2-ラクタム、

B1-2．次のB1-2群からなる群から選択される1～40重量％の少なくとも1種のモノマー：

B1-21 モノエチレン系不飽和C_3-C_8-カルボン酸のC_8-C_{30}-アルキルエステル、

B1-22 C_8-C_{30}-アルキル基を有するアクリル酸またはメタクリル酸のN-アルキル-またはN,N-ジアルキル-置換アミド、

B1-23 脂肪族非分枝C_8-C_{30}-カルボン酸のビニルエステル、

B1-24 C_8-C_{30}-アルキルビニルエーテル

(ここで、それぞれの成分の重量パーセントは100重量％以下となるように加える)；

D．次のD群から得ることができるエチレン系不飽和ジカルボン酸モノ-およびジエステルをベースとしたコポリマー：

D1 オレフィン、ビニルエーテルおよびスチレンの群から選択される少なくとも1種のモノマー、ならびに、

D2 エチレン系不飽和ジカルボン酸のモノ-およびジエステルの群から選択される少なくとも1種のモノマーであって、この場合、前記エステルのアルコール基が次式(V)の構造を有するもの：

$-(R^{10}-O)_n-(R^{11}-O)_p-R^{12}$ (V)

(式中、記号および指数はそれぞれ以下の通り定義する：

R^{10}は、1,2-プロピレンまたは2,3-プロピレンであり；

R^{11}は、エチレンであり；

R^{12}は、H、非分枝もしくは分枝C_1-C_{40}-アルキル、フェニル、C_1-C_{20}-アルキルで置換されているフェニル、ベンジル、C_1-C_{20}-アルキルで置換されているベンジルであり；

nは、0～140の整数であり、

pは、0～100の整数であり、

ここで、nおよびpの合計は、少なくとも1である)。

【請求項２】

殺虫剤がフィプロニル、アレスリン、アルファシペルメトリン、ベータシフルスリン、ビフェントリン、ビオアレスリン、4-クロロ-2-(2-クロロ-2-メチルプロピル)-5-[(6-ヨード-3-ピリジニル)メトキシ]-3(2H)-ピリダジノン(CAS-RN：120955-77-3)、クロラントラニリプロール、クロルフェナピル、クロルピリホス、シアントラニリプロール、シフルスリン、シハロスリン、シペルメトリン、デルタメトリン、エトフェンプロックス、フェノキシカルブ、フルフェノクスロン、ヒドラメチルノン、イミダクロプリド、インドキサカルブ、メタフルミゾン、ペルメトリン、ピリプロキシフェン、テブフェノジドおよびトラロメトリンの群から選択される、請求項1に記載の組み合わせ。

【請求項３】

殺虫剤がフィプロニルである、請求項2に記載の組み合わせ。

【請求項４】

可溶化剤が群A1から選択される、請求項1～3のいずれか1項に記載の組み合わせ。

【請求項５】

可溶化剤が群B1から選択される、請求項1～3のいずれか1項に記載の組み合わせ。

【請求項６】

可溶化剤が群Dから選択される、請求項1～3のいずれか1項に記載の組み合わせ。

【請求項７】

2種以上のポリマー可溶化剤の混合物を使用する、請求項1～6のいずれか1項に記載の組み合わせ。

【請求項８】

活性成分と可溶化剤の重量比が1：1～1：200である、請求項1～7のいずれか1項に記載の組み合わせ。

【請求項９】

殺虫剤(a)および可溶化剤(b)だけでなく、次の群から選択される1種または複数のアジュバント(c)を使用する、請求項1～8のいずれか1項に記載の組み合わせ：

Z1 トリスチリルアルキルエーテルサルフェートまたはホスフェート

Z2 ペルフルオロアルキルエトキシレートをベースとした非イオン性界面活性剤

Z3 83％のパラフィンをベースとした高精製石油系油分および17％のアルキルアリールポリオキシエチレングリコールの混合物；

Z4 ポリエーテルまたはオルガノ変性トリ-およびポリシロキサン

Z5 式：$CH_3CH[(CH_2)_nCH_3][O(C_2H_4O)_mH]$(式中、n＝9～15およびm＝3～40)で表されるアルキルオキシポリエチレンオキシエタノールの非イオン性界面活性剤混合物

Z6 100％の2-(3-ヒドロキシプロピル)ヘプタメチルトリシロキサン、エトキシ化アセテート、アリルオキシポリエチレングリコールモノアリルアセテートおよびポリエチレングリコールジアセテートのシリコーン界面活性剤混合物

Z7　第一級アルキルポリオキシエチレンエーテル、遊離脂肪酸およびアジュバントを含む生物分解性の低泡立性非イオン性界面活性剤；
Z8　ダイズ系の脂肪酸およびアルコールエトキシレートの非イオン性界面活性剤混合物；
Z9　58％のアンモニウムn-アルコールエーテルサルフェートを含むアニオン界面活性剤混合物；
Z10　58％のアンモニウムノニルフェノールエーテルサルフェートを含むアニオン界面活性剤混合物；
Z11　ポリアルキレンオキシド変性ポリジメチルシロキサンおよび非イオン性界面活性剤の混合物；
Z12　100％ポリオキシエチレン(10)-イソオクチルシクロヘキシルエーテルからなる非イオン系洗剤、ならびに／あるいは、
Z13　アルコキシル化脂肪アルコールおよび／または脂肪酸(これらはそれぞれ、さらにエーテル化、スルホン化またはリン酸化されていてもよい)。
【請求項１０】
請求項9に記載のアジュバントを使用しない、請求項1～8のいずれか1項に記載の組み合わせ。
【請求項１１】
請求項1～10のいずれか1項に記載の殺虫剤およびポリマー可溶化剤の組み合わせを水性施用形態で処理しようとする土壌に施用する、難溶性殺虫剤の土壌移動性の改善方法。
【請求項１２】
土壌生息している無脊椎動物害虫の防除方法であって、
a) 少なくとも1種の難溶性の活性殺虫成分と、
b) ポリマー可溶化剤1重量％水溶液中の活性防蟻剤成分が25℃および1.01325 barで、純水中の同一条件下に比べて少なくとも40倍高い溶解性を有するという特性を有し、また、請求項1に記載の可溶化剤A1およびB1の群から選択される、少なくとも1種のポリマー可溶化剤とを、
水性施用形態中、重量比(a：b)≦1で、害虫が利用している土壌に、または土壌中に施用する、防除方法。
【請求項１３】
害虫がアリであり、かつ／またはテンサイ作物の土壌に存在する、請求項12に記載の方法。
【請求項１４】
害虫がシロアリであり、活性殺虫成分が防蟻剤である、請求項12に記載の方法。
【請求項１５】
土壌が建造物の下に存在するか、またはその半径10m以内に存在する、請求項14に記載の方法。
【請求項１６】
防蟻剤を深さが1～3インチの溝に施用する、請求項14または15に記載の方法。
【請求項１７】
水性施用形態での防蟻剤の濃度が少なくとも1000ppmである、請求項14～16のいずれか1項に記載の方法。
【請求項１８】
活性殺虫成分がフィプロニルである、請求項12～17のいずれか1項に記載の方法。
【請求項１９】
請求項1に記載の可溶化剤A1を使用する、請求項12～18のいずれか1項に記載の方法。
【請求項２０】
製剤として難溶性の活性殺虫成分、ポリマー可溶化剤を使用し、さらに適切な場合には1種または複数のアジュバントを使用する、請求項12～19のいずれか1項に記載の方法。
【請求項２１】

ポリマー可溶化剤および／または1種もしくは複数のアジュバントをタンク混合として水性施用形態に加える、請求項12～19のいずれか1項に記載の方法。
【請求項２２】
a) フィプロニル、アレスリン、アルファシペルメトリン、ベータシフルスリン、ビフェントリン、ビオアレスリン、4-クロロ-2-(2-クロロ-2-メチルプロピル)-5-[(6-ヨード-3-ピリジニル)メトキシ]-3(2H)-ピリダジノン(CAS-RN：120955-77-3)、クロラントラニリプロール、クロルフェナピル、クロルピリホス、シアントラニリプロール、シフルスリン、シハロスリン、シペルメトリン、デルタメトリン、エトフェンプロックス、フェノキシカルブ、フルフェノクスロン、ヒドラメチルノン、イミダクロプリド、インドキサカルブ、メタフルミゾン、ペルメトリン、ピリプロキシフェン、テブフェノジドおよびトラロメトリンの群から選択される1種または複数の活性成分と、
b) ポリマー可溶化剤1重量％水溶液中の活性成分が25℃および1.01325 barで、純水中の同一条件下に比べて少なくとも40倍高い溶解性を有するという特性を有し、請求項1に記載の群A1から選択される、少なくとも1種のポリマー可溶化剤
とを重量比(a：b)≦1で含む、製剤。
【請求項２３】
活性成分がフィプロニルであり、WG、SC、SLまたはDC製剤の形態である、請求項22に記載の製剤。
【請求項２４】
c) 請求項9に記載の群Z1～Z13から選択される1種または複数のアジュバントをさらなる成分として含む、請求項22または23に記載の製剤。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４８】
好ましくは、ポリカーボネートが、少なくとも3個のOH基を有するアルコールとC_3-C_{24}アルキレンオキシドとをベースとする三官能性または高官能性ポリエーテルオールであるアルコールAを含む、超分枝鎖ポリカーボネートA1である。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６１】
少なくとも3個のヒドロキシル基を有するアルコール(B1)は、通常、脂肪族アルコールまたは芳香族アルコールであるか、この種の混合物、すなわち2種以上の異なるアルコールである。アルコール(B1)は分枝鎖または非分枝鎖で置換または非置換であってもよく、かつ3～26個の炭素原子を有する。好ましくは、脂肪族アルコールである。少なくとも3個のOH基を有する化合物の例には、グリセロール、トリメチロールメタン、トリメチロールエタン、トリメチロールプロパン、トリメチロールブタン、1,2,4-ブタントリオール、1,2,3-ヘキサントリオール、1,2,4-ヘキサントリオール、トリス(ヒドロキシメチル)アミン、トリス(ヒドロキシエチル)アミン、トリス(ヒドロキシプロピル)アミン、ペンタエリトリトール、ジグリセロール、トリグリセロール、ポリングリセロール、ビス(トリメチロールプロパン)、トリス(ヒドロキシメチル)イソシアヌレート、トリス(ヒドロキシエチル)イソシアヌレート、フロログルシノール、トリヒドロキシトルエン、トリヒドロキシジメチルベンゼン、フロログルシデス(phloroglucides)、ヘキサヒドロキシベンゼン、1,3,5-ベンゼントリメタノール、1,1,1-トリス(4'-ヒドロキシフェニル)メタン、1,1,1-トリス(4'-ヒドロキシフェニル)エタン、糖類、例えばグルコース、糖誘導体、例えばソルビ

トール、マンニトール、ジグリセロール、トレイトール、エリトリトール、アドニトール(リビトール)、アラビトール(リキシトール)、キシリトール、ズルシトール(ガラクチトール)、マルチトール、イソマルチトールまたはポリエステルオールが含まれる。さらに、B1は、少なくとも3個のOH基を有するアルコールとC_2-C_{24}アルキレンオキシドとをベースとした三官能性または高官能性ポリエーテルオールであってもよい。特にポリエーテルオールは、通常、ヒドロキシル基当たり平均して1～30、好ましくは1～20、さらに好ましくは1～10、最も好ましくは1～8個の分子のエチレンオキシドおよび／またはプロピレンオキシドおよび／またはイソブチレンオキシドを含む。

【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６２】

超分枝鎖ポリカーボネートは、好ましくは、少なくとも3個のOH基を有するアルコールとC_3-C_{24}アルキレンオキシドとをベースとした三官能性または高官能性ポリエーテルオールであるアルコール(B1)を含む。少なくとも3個のOH基の好適なアルコールは上記の通りであるが、好ましくは、グリセロール、トリメチロールエタン、トリメチロールプロパン、1,2,4-ブタントリオール、1,2,3-ヘキサントリオール、1,2,4-ヘキサントリオール、ペンタエリトリトールであり、さらに好ましくは、グリセロールおよびトリメチロールプロパンである。好ましいC_3-C_{24}アルキレンオキシドとしては、プロピレンオキシド、ブチレンオキシド、ペンチレンオキシドおよびそれらの混合物が挙げられ、さらに好ましくはプロピレンオキシドである。三官能性または高官能性ポリエーテルオールは、通常、好ましくは1～30、好ましくは2～30、さらに好ましくは3～20個のC_3-C_{24}アルキレンオキシド分子を重合形態で含む。特に好ましいアルコール(B1)は、グリセロール、トリメチロールエタン、トリメチロールプロパン、1,2,4-ブタントリオールおよび／またはペンタエリトリトールと、プロピレンオキシドとをベースとした三官能性ポリエーテルオールであり、この場合、ポリエーテルオールは、少なくとも3、好ましくは3～30、さらに好ましくは3～20個のプロピレンオキシド分子を重合形態で含む。